

沖縄県立芸術大学アドミッション・ポリシー

■アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

1 教育の理念

沖縄県立芸術大学の建学の基本的な精神は、沖縄文化が造りあげてきた個性の美と人類普遍の美を追究することにあります。これに基づき、伝統芸術の継承と発展にとどまらず、新たな芸術創造の可能性を広げ、幅広く芸術分野で活躍できる人材を育成していきます。さらに、学生の専門的力を高め、豊かな人間性と社会性を身につける教育を目指します。

2 本学の求める人物像

- ・本学の教育の理念をよく理解し、学習に必要な基礎的知識・技能を備えている人
- ・芸術に強い関心があり、自ら課題を発見し解決するための思考力や判断力、表現力を備えている人
- ・多様な芸術文化に興味を持ち、主体的に人々と協働し、現代社会に向けて新しい芸術創造の営みを発信していく意欲に満ちた人

3 入学者選抜区分

- ・本学では一般選抜、学校推薦型選抜、総合型選抜及び社会人選抜を実施します。

4 入学者選抜試験の基本方針と実施

一般選抜においては、大学及び各学部のアドミッションポリシーに基づき、大学入学共通テストの成績を利用した選抜試験と個別学力検査等（実技検査、小論文、口述試験、面接等）を実施します。

なお、大学入学共通テストについて、国語、外国語及びその他任意の1科目の合計3科目を試験科目として課します。

- ・学校推薦型選抜においては、実技検査、小論文、面接等を実施します。
- ・総合型選抜においては、実技検査、小論文、プレゼンテーション、面接等を実施します。
- ・音楽学部の社会人選抜においては、個別学力検査等（専攻試験、小論文等）を実施します。

いずれの試験においても、本学での学習に必要な「学力の3要素（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性等）」を測り評価します。

美術工芸学部アドミッション・ポリシー

■アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

【教育の理念】

大学の教育理念に基づき、沖縄県立芸術大学美術工芸学部では、沖縄の伝統に根差した美術工芸はもとより造形芸術に新たな地平を切り拓き、自ら社会的役割を担える作家、研究者、教育者などの専門家を育成するため、専門的素養と総合的知識、国際的視野を身につける教育を行います。

【求める人物像】

美術工芸学部の教育を達成するために、次に掲げる知識・技能や能力（思考力・判断力・表現力等）、目的意識・意欲等を備えた人材を求めます。

- 1 本学及び美術工芸学部の教育の理念をよく理解し、大学での学習に必要な基礎的な知識と技能を備えている人
- 2 美術・デザイン・工芸分野における制作や学習において、自ら課題を発見し解決するための思考力、判断力、表現力を備えている人
- 3 美術・デザイン・工芸の分野において作家、研究者、教育者などの専門家になる意欲のある人
- 4 芸術文化の多様な背景を理解し、人とのコミュニケーションを大切に考え、社会性を認識し主体性を持って他者と協働できる人
- 5 沖縄固有の芸術文化や自然等に関心があり、沖縄で学ぶことに意義を見出せる人

【入学者選抜試験の基本方針と実施】

美術工芸学部においては、学部の教育理念を踏まえ、各専攻の専門性に沿った試験を課し評価します。また、専攻ごとに設定された多様な入試科目において、「学力の3要素（基礎的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力、主体性・多様性・協働性）」を総合的に評価します。なお、入試区分及び募集枠ごとに総合点の上位から合格者の選抜を行います。

各入試区分における評価方法は以下の通りです。

- 1 一般選抜では、大学入学共通テストにおいて国語、外国語及び任意の1科目の合計3科目を課し、大学での学習に必要な知識、技能、思考力等を測り評価します。また、個別学力検査等において、実技検査、小論文、面接（プレゼンテーションを含む）を実施し、専門分野における基礎的能力、主体性及び将来性を測り評価します。面接においては多面的・総合的な評価を行うために、調査書及び志願者本人の記載する資料等を活用します。
- 2 学校推薦型選抜では、絵画・デザイン・工芸各専攻は課題作品、小論文の提出と面接（プレゼンテーションを含む）を、芸術学専攻は小論文の提出と面接、口述試験を実施し、大学での学習に必要な知識、技能、専門分野における基礎的能力、主体性及び将来性を測り評価します。面接においては多面的・総合的な評価を行うために、調査書及び高等学校長からの推薦書、志願者本人の記載する資料等を活用します。
- 3 総合型選抜では、彫刻専攻・工芸各専攻は、専攻別に設定する試験（実技検査、小論文、作品資料の提出等）及び面接（プレゼンテーション含む）を課し、大学での学習に必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等を測るとともに、本人の能力・適性や学習に対する意欲、目的意識等を総合的に評価・判定します。また、多面的、総合的な評価を行うため、面接等において、志願者本人が記載する書類等を活用します。

<美術工芸学科>

◆絵画専攻

【求める人物像】

- ・絵画制作をおこない研究する上で必要な、基礎的知識を備えている人
- ・芸術に深い興味と強い探究心を持ち、学習意欲のある人
- ・芸術で自己を表現したいと考えている人
- ・芸術を通して豊かな人間性、社会性を身につけたいという意欲のある人

【入学前に身につけてほしい学習成果】

- ・基礎的な学力（国語、外国語、その他の科目）。
- ・絵画制作において必要な、基礎的な観察力、描写力、構成力、表現力。
- ・論理的な思考力、他者とのコミュニケーション能力、主体的な学習意欲。

【入学者選抜区分】

- ・絵画専攻では、学校推薦型選抜、一般選抜（前期日程、後期日程）を実施する。

【入学者選抜試験の基本方針と実施】

1. 学校推薦型選抜

- ・絵画専攻では個別学力検査等（小論文、課題作品）は遠隔入試（提出型）で実施する。
課題作品の「素描」「着彩」「作品資料」においては、専門分野を学ぶ上で必要となる基礎的な観察力、描写力、構成力、表現力を評価する。各受験者に対し、専攻が定めた評価基準を基に採点し、専攻教員の集計結果により評価を決定する。
- ・面接は、遠隔入試（オンライン型）で実施する。面接においては総合的な評価をおこなうため、調査書及び高等学校長からの推薦書、志願理由書等を活用し評価する。専攻が定めた評価基準を基に採点し、専攻教員の集計結果により評価を決定する。

2. 一般選抜

- ・一般選抜では、大学入学共通テストにおいて国語、外国語及び任意の1科目の合計3科目を課し、大学での学習に必要な知識や論理的思考力を測り評価する。個別学力検査等においては、前期試験では「実技検査」「面接」、後期試験では「実技検査」「小論文」「面接」を実施し、専門分野における基礎的な観察力、描写力、構成力、表現力、将来性などを測り評価する。面接試験においては総合的な評価をおこなうために調査書等を活用する。専攻が定めた評価基準を基に採点し、専攻教員の集計結果により評価を決定する。

◆彫刻専攻

【求める人物像】

- ・彫刻における基礎的な観察力、造形力、表現力を備えている人

- ・自己を深く見つめ自然や社会との関係を思索している人
- ・彫刻における造形行為と自己の将来を肯定的に重ね合わせることのできる人

【入学前に身につけてほしい学習成果】

- ・基礎的な学力（国語、外国語、その他の科目）
- ・対象の形態を把握する「観察力」と、画面上で確かな存在感を表現する基礎的な「描写力」
- ・対象の内に彫刻的な量塊と動勢を捉える「観察力」と、全体と細部の調和をとり量感豊かに表現する基礎的な「造形力」
- ・論理的な思考力、コミュニケーション能力、主体的な学習意欲

【入学者選抜区分】

- ・令和7年度より、彫刻専攻では、一般選抜（前期日程）、総合型選抜を実施する

【入学者選抜試験の基本方針と実施】

1. 一般選抜

一般選抜では、大学入学共通テストにおいて国語、外国語及び任意の1科目の合計3科目を課し、大学での学習に必要な知識、技能、思考力等を測り評価します。また、個別学力検査等において、実技検査、面接試験（自己評価を含む）を実施し、専門分野における基礎的能力、主体性及び将来性を測り評価します。面接試験においては多面的・総合的な評価を行うために、調査書及び志願者本人の記載する資料等を活用します。

2. 総合型選抜

総合型選抜では、小論文、実技試験（事前に制作された作品）、面接試験と、作品資料（作品ファイルやクロッキー帳等）の提出により審査を行い、可否を判定します。事前に制作された作品と作品資料の審査では、日頃の制作に対する意欲や取り組みを評価します。小論文では論理的な思考力を、面接試験（自己評価を含む）では主体性及び将来性を測り評価します。面接試験においては多面的・総合的な評価を行うために、調査書及び志願者本人の記載する資料等を活用します。

◆芸術学専攻

【求める人物像】

- ・多様な芸術作品や芸術に関する現象に興味を持ち、それらについての知見や情報を進んで収集する意欲を持つ人。
- ・芸術についての知識や思想を「言葉」によって表現し、他者と知的なコミュニケーションを交わすことに関心がある人。
- ・日々読書に親しんで知的好奇心を満たし、感性や言葉を磨こうとする人。
- ・現代社会における芸術のあり方を考え、その未来を展望することを目指す人。
- ・芸術作品を積極的に鑑賞し、また制作や芸術運動への参加を通じて、具体的な経験に即した思考を行える人。

【入学前に身につけてほしい学習成果】

- ・基礎的な学力（国語、外国語、その他の科目）。
- ・理解可能な明瞭な言葉で論述するために必要な基礎的能力。
- ・論理的思考力、他者とのコミュニケーション能力、主体的な学習意欲。

【入学者選抜区分】

- ・芸術学専攻では、学校推薦型選抜、一般選抜（前期日程）を実施する。

【入学者選抜試験の基本方針と実施】

1. 学校推薦型選抜（遠隔入試）

- ・芸術学専攻では個別学力検査等（小論文）は遠隔入試（提出型）で実施する。
- 各受験者に対し、複数の教員が専攻で定めた評価基準を基に個々に採点し、集計した結果により評価する。
- ・口述試験は、遠隔入試（オンライン型）で実施する。提出された小論文についての質問に対する回答を、複数の教員が専攻で定めた評価基準を基に個々に採点し、集計した結果により評価する。

・面接は、遠隔入試（オンライン型）で実施する。面接においては総合的な評価をおこなうため、質問に対する回答のほか、調査書及び高等学校長からの推薦書、志願理由書等を活用しつつ評価する。複数の教員が専攻で定めた評価基準を基に個々に採点し、集計した結果により評価する。
小論文、口述試験、面接の結果を総合して評価を決定する。

2. 一般選抜

・一般選抜では、大学入学共通テストにおいて国語、外国語及び任意の1科目の合計3科目を課し、芸術学専攻での学習に必要な基礎的知識や論理的思考力を測る。
・個別学力検査等においては、「小論文」ないしは「実技試験 素描」を実施する。「小論文」では芸術への関心の高さや、自説を論理的に展開し表現できるかを、また「実技試験 素描」では外面構成、空間、形、量感の理解と表現力という基本的なデッサン力を測り、評価する。
・面接試験においては、総合的な評価をおこなうために、質問に対する受け答えに加え、調査書等を活用する。複数の教員が専攻で定めた評価基準を基に個々に採点し、集計した結果により評価する。
・大学入学共通テスト、個別試験、面接の結果を総合して評価を決定する。

<美術工芸学科>

◆デザイン専攻

【求める人物像】

- ・デザインに興味と探究心を持ち、学習する意欲のある人
- ・デザインを学習する上で必要な基礎的知識を備えている人
- ・主体的に作品を制作、表現したいと考える人
- ・デザインを通して豊かな人間性、社会性を身につけたいという意欲のある人

【入学前に身につけてほしい学習成果】

- ・基礎的な学力（国語、外国語、その他の科目）。
- ・デッサンの基礎的能力
- ・デザインの専門分野における基礎的知識。（色彩構成、平面構成、立体構成）

【入学者選抜区分】

- ・デザイン専攻では、一般選抜、学校推薦型選抜を実施します。

【入学者選抜試験の基本方針と実施】

1. 一般選抜

- ・デザイン専攻では、個別学力検査等（素描、色彩構成、立体構成、面接）を実施します。
複数の教員が、専攻で定めた評価基準を基に個々に採点し、集計した結果により評価を決定します。
- ・個別学力検査等（素描、色彩構成、立体構成、面接）と大学入学共通テスト（国語、外国語、他1科目）の結果を総合して合否を判定します。

2. 学校推薦型選抜

- ・デザイン専攻では、実技検査（課題作品）、小論文、面接を実施します。
複数の教員が、専攻で定めた評価基準を基に個々に採点し、集計した結果により評価を決定します。
- ・課題作品、小論文、面接の結果を総合して合否を判定します。

◆工芸専攻

【求める人物像】

- ・工芸を研究する上で必要な基礎能力を備えている人
- ・工芸に強い関心があり、興味と探求心に溢れている人
- ・工芸及び芸術文化で自己を表現したいと考える人
- ・工芸を通して豊かな人間性、社会性を身につけたいという意欲のある人

【入学前に身につけてほしい学習成果】

- ・基礎的な学力（国語、外国語、その他の科目）。
- ・美術工芸の創作に必要な基礎的な能力（素描、色彩構成）

- ・大学の学習に必要な「学力の3要素」
(知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性)

【入学者選抜区分】

- ・工芸専攻では、一般選抜（前期日程）、学校推薦型選抜、総合型選抜を実施する。

【入学者選抜試験の基本方針と実施】

1. 一般選抜

- ・課題作品の「素描」と「色彩構成」は、遠隔入試（提出型）で実施する。
専門分野を学ぶ上で必要となる基礎的な観察力、構成力、発想力を評価する。
各受験者に対し、専攻が定めた評価基準を基に採点し、専攻教員の集計結果により評価を決定する。
- ・面接（実技試験のプレゼンテーションを含む）は遠隔入試（オンライン型）で実施する。
面接においては、主体性等総合的な評価を行うために、調査書等を活用し評価する。

各受験者に対し、専攻が定めた評価基準を基に採点し、専攻教員の集計結果により評価を決定する。

- ・大学入学共通テストにおいて国語、外国語及び任意の1科目の合計3科目を課する。

以上の実技（素描・色彩構成）、面接、大学入学共通テストの結果を総合して合否を判定する。

2. 学校推薦型選抜

- ・個別学力検査等の「小論文」は、遠隔入試（提出型）で実施する。
大学での学習に必要な知識、技能、専門分野における基礎的能力、主体性及び将来性を測り評価する。
各受験者に対し、専攻が定めた評価基準を基に採点し、専攻教員の集計結果により評価を決定する。
- ・課題作品の「鉛筆デッサン」、「作品ファイル・収集資料」は、遠隔入試（提出型）で実施する。
専門分野を学ぶ上で必要となる基礎的な観察力、構成力、発想力を評価する。
各受験者に対し、専攻が定めた評価基準を基に採点し、専攻教員の集計結果により評価を決定する。
- ・面接（課題作品のプレゼンテーションを含む）は、遠隔入試（オンライン型）で実施する。
面接においては多面的・総合的な評価を行うために、調査書及び高等学校長からの推薦書、志願理由書等を活用し評価する。
各受験者に対し、専攻が定めた評価基準を基に採点し、専攻教員の集計結果により評価を決定する。

以上の小論文、課題作品、面接の結果を総合して合否を判定する。

3. 総合型選抜

- ・実技試験を対面で実施する。
平面又は、立体造形の制作を課する。
授業形式の試験とし、教員とコミュニケーションをとりながら制作する。
制作に取り組む姿勢や意欲、能力・適正等を総合的に評価する。
各受験者に対し、専攻が定めた評価基準を基に採点し、専攻教員の集計結果により評価を決定する。
- ・面接（実技試験のプレゼンテーションを含む）を対面で実施する。
面接においては、工芸に対して高い関心と意欲を持ち、目的意識が高く創造力を備えているか等を総合的に評価する。また、多面的・総合的な評価を行うために、調査書、活動報告書、志願理由及び修学計画書等を活用し評価する。
各受験者に対し、専攻が定めた評価基準を基に採点し、専攻教員の集計結果により評価を決定する。

以上の実技試験、面接の結果を総合して合否を判定する。